古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第　2998号
発行令和2年2月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南1条1丁目
TEL　26－2226

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

岩見沢市立病院での討議民生常任委員会で

第3種郵便物認可

道、岩見沢2病院統合提起

道内初　市立総合と中央労災

【岩見沢】道は10日、岩見沢市内で開いた南空知医療圏4市5町の医療関係者らが集まる会議で、岩見沢市立総合病院（484床）と北海道中央労災病院（岩見沢、199床）について「機能集約化など再編統合に向けた議論を進めてほしい」と提起した。道内21の2次医療圏で、道が具体的な病院名を示して再編統合の方向性を提起したのは初めて。

会議で道は、南空知の公的医療機関で施設老朽化から建て替えの検討が進んでいる現状を指摘。岩見沢の両病院がともに2次救急や重症患者への対応などの急性期医療を担っていることから、「人口減少下での急性期機能の維持・強化を図るため」として、再編統合に向けた議論を促した。

これを受け、岩見沢市の松野哲市長は「将来を見据えた市内の医療体制確保の観点から避けては通れない課題。今後、労災病院側との協議の機会は持っていく必要がある」と表明。北海道中央労災病院の大塚義紀院長は「人口動態を考慮した適正な時期に次のステップの話し合いの場を持っていくべきだ」と述べた。会議には南空知の医療機関や市町の担当者ら39人が出席した。

岩見沢市は市立総合病院の建て替えに向け本年度中の基本構想策定を目指している。労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構（本部・川崎市）が運営する。両病院とも厚生労働省が昨年9月に再編・統合の議論が必要だとして公表した公的病院には含まれていない。（石川実和）

道、職員の禁煙支援

新年度から　外来受診に助成

道は、新年度から取り組む道職員向け禁煙支援策の案をまとめた。6月から道庁本庁舎の敷地内を完全禁煙とし、職員向け喫煙所がなくなるため、禁煙外来の受診費用の一部助成などを行う方針。道職員の喫煙率を昨年度の21・6％から、12％以下にする目標を掲げる。

禁煙外来に対する助成割合は現在検討中。鈴木直道知事が道議会新庁舎の喫煙所設置について「税金を使うことはできない」と発言していることなどを踏まえ、支援策の財源は、共済組合や職員互助会の資金活用を含めて検討している。

支援策としてこのほか、①禁煙体験談を募集して広く紹介する事業②定期健診で把握した喫煙者への禁煙啓発パンフレット配布③禁煙希望者対象の保健指導生活習慣改善サポートプログラムの拡充―などを検討。年度内にも支援策を確定し、職員に告知する。

道庁敷地内が完全禁煙となった後、路上や敷地外での喫煙や、昼休みなどに近隣の喫煙所への集中を避けるよう注意喚起も強化する。

道庁本庁舎の敷地内には現在、道議会新庁舎の駐車場予定地に喫煙所があり、6月の新庁舎利用開始までに撤去される。空知、上川など8総合振興局・振興局は既に完全禁煙化され、石狩振興局は本庁舎と同時、十勝や渡島も順次、完全禁煙とする方向。（村田亮）

恒例「人間ばんば」や無料きじ鍋…

15、16日　岩見沢でドカ雪まつり

【岩見沢】岩見沢の冬を楽しむ第30回IWAMIZAWAドカ雪まつり（市観光協会主催）が15、16の両日、駅東市民広場公園（有明町南1）などで開かれる。恒例の人間ばんば選手権やジャンボかるた取り、きじ鍋無料配布などを行う。

メインステージの巨大雪像は、岩見沢の農産物PRキャラクター「いわみちゃん♪」をデザインする。滑り台の高さは、1月の製作開始時に約6㍍を予定していたが、雪不足で約4㍍にとどまる見通しだ。

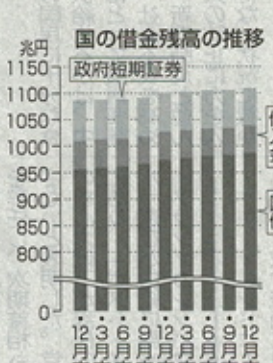
15日は午前10時から、ラーメンや焼き鳥などの屋台が開店。午前10時～午後1時（受け付けは午後0時半まで）には、子ども向けの「駆けまわれ！ウインターチャレンジ」を開く。雪の滑り台、ペダルのない二輪車「ストライダー」など4種目で速さを競う。午後4時からは800食限定できじ鍋を無料配布する。

16日は午前10時20分から、小学3年生以下が対象のジャンボかるた取り、午後1時半から、人が乗った馬そりを引く「人間ばんば選手権」を行う。午後2時半からは300食限定で豚汁を無料で配る。

15日は正午～午後5時、16日は午前10時～午後3時に、スノーモービルの同乗体験を行う。8日に北村で発生したスノーモービル事故を受け、コースの一部に雪で壁を作るほか、参加者には受け付けの際、乗車方法やヘルメット着用などの呼び掛けを徹底する。（山口真理絵）

国の借金 1110兆円超

1人当たり881万円



財務省は10日、国債と借入金、政府短期証券を合計した国の借金が2019年12月末時点で1110兆7807億円となり過去最大を更新したと発表した。20年1月1日時点の総人口1億2602万人（総務省推計）で割ると、国民1人当たり約881万円の借金を抱えている計算になる。これまで最高だった19年6月末時点から5兆3454億円増えた。超低金利の環境で償還までの期間が10年以上の長期国債の発行が増えたことや、社会保障費を賄うための発行増が影響した。政府は25年度までの基礎的財政収支（プライマリーバランス）の黒字化を目指しているが、財政健全化への道のりは遠い。

内訳は国債が987兆2495億円で、直近の19年9月末時点から4兆6107億円増加した。金融機関などからの借入金は52兆4620億円で、1兆7312億円増えた。一時的な資金不足を補うために発行する政府短期証券は4899億円減の71兆691億円だった。

病院統合協議「必要」で一致

岩見沢市立総合と中央労災

事務レベルで話し合いへ

道提起　周辺市町、動向に注目

道が10日に提起した岩見沢市立総合病院（484床）と、岩見沢市内の北海道中央労災病院（199床）の再編統合議論について、市と労災病院はともに協議の必要性があるとの認識は示した。道の提起を受け、人口減少が進む地域の救急医療を支える体制づくりに向けた議論が進むのか。施設老朽化に伴う病院建て替えなどを模索する周辺市町も行方を注視する。（石川実和、中沢弘一）

道は10日、南空知4市5町の医療関係者らが集まる南空知保健医療福祉圏域連携推進会議を岩見沢市内で開催。「人口減少下での急性期機能の維持・強化を図る」として、2次救急や重症患者への対応など急性期医療を担う両病院の再編統合議論を促した。

会議で岩見沢市の松野哲市長は「市立総合病院など市内の医療機関は周辺の市町から多くの外来や入院患者が受診している」と指摘。「持続可能な地域医療のためには市内の救急医療体制の確立が重要。議論を進めていくことに異論はない」と述べた。

北海道中央労災病院の大塚義紀院長も「適正な時期に次のステップの話し合いの場を持っていくべきだ」と協議の必要性に言及した。一方で地域の救急医療体制は「市立総合病院と役割分担しながら、今しばらくは維持できると考える」として、性急な議論には慎重な姿勢をにじませた。

市は現在、市立総合病院の建て替えに向けた基本構想の策定作業を進めており、4月以降に新病院の具体的な規模や診療科の整理など基本計画づくりに入るが、建設場所は「現在地では厳しい」（松野市長）の声が実情。同病院事務部は「今後（同病院の）事務レベルの話し合いを進めていくことになる」と話す。

両病院とも厚生労働省が昨年9月に再編・統合の議論が必要だとして公表した公的病院には含まれていない。今回の提起は、両病院の再編統合議論をきっかけに医療圏全体での議論を加速させたい道などの意向もあるとみられる。自治体関係者は「他市町間では再編議論が進まないが、同じ市内の病院同士なら議論しやすいのでは」とみる。

周辺市町は両病院の再編議論の行方を見守る。市立三笠総合病院の三百刈宏子事務局長は「三笠市民は岩見沢の両病院も受診している。この状態が維持できるよう求めたい」。建て替えに向けた議論が続く市立美唄病院の今沢清隆事務局長は「美唄で担うのが難しい（重症患者向けの）高度急性期医療は、岩見沢や砂川の市立病院にお願いしたいと考えている」と話した。

㊤岩見沢市立総合病院㊦北海道中央労災病院

管内10観測地点で最高気温プラス　3月中・下旬並み

冬のイベントやきもき

「ドカ雪まつり」雪像補修急ぐ

空岩　2020年（令和2年）2月13日（木曜日）

上空に南から暖気が入り込んだ影響で、空知管内でも12日、10観測地点全てで最高気温がプラスとなり、3月中旬から下旬並みの気候となった。暖かさは15日まで続く見込みで、週末の冬季イベントへの影響を懸念する声も出ている。

札幌管区気象台によると、12日午後6時までの最高気温は長沼町で5・4度、岩見沢市が5・3度、芦別市が5・2度などだった。

岩見沢市で15日に開幕する「IWAMIZAWAドカ雪まつり」の会場では、陸上自衛隊岩見沢駐屯地の隊員たちが製作中の巨大雪像の解けた部分に雪を貼り付ける補修作業に追われた。13日以降は晴れた場合はブルーシートで覆い、気温が下がる夜間まで作業を延長するという。指揮を執る鷲尾卓哉3尉(32)は「影響を最小限に抑えたい」と話した。

滝川市でも、22日に開かれる「たきかわ紙袋ランターンフェスティバル」の関係者が気温の上昇に困り顔を見せる。ランタンを設置するステージに雪が必要なため、実行委は「今後の暖気で雪が解けないか心配」と気をもむ。

雪解けによる路面状況の悪化で事故を懸念する声も。岩見沢市内の50代の男性タクシー運転手は、「雪や氷の表面が解けた水でぬれると、滑りやすくなるのでおっかない」と話した。（梶原康生、小池啓人）

気温の上昇で雪が解け、水たまりができた岩見沢市内の道路＝12日午後0時10分ごろ

警察と消防連携　落雪の救助訓練

【芦別】芦別署と滝川地区広域消防事務組合芦別消防署は12日、落雪事故に備えた初めての合同救助訓練を同消防署敷地で行った。

芦別署員、芦別消防署員それぞれ7人が参加した。屋根の雪下ろし中に人が落ちて埋まったとの想定で、現場に駆け付け情報収集し、捜索隊が一列になって雪の下に呼びかけ、長さ2・6㍍のゾンデ棒を雪中に